学校自慢

未来を子供たちへ～地域とともに～

市川市立真間小学校校長　福地（ふくち）　かがり

1　歴史ある真間地区

本校は、全校児童が635名。来年創立90周年を迎える。

JR市川駅から徒歩12分。歩いていくと少しずつ喧噪が消えていき、京成線を渡るころには国府台、須和田の丘が見えてきて、東京都に隣接していることを忘れるほど自然があふれ、閑静な住宅が立ち並ぶ。

近くの真間山弘法寺の石段には、どんな晴天でも濡れている、という「涙石」。万葉集にうたわれた手児奈を祀る霊神堂。通りには、「万葉の歌パネル」が設置されており、休日ともなると、あちこちのパネルをのぞきながら散策に訪れる方々も多く、子供たちにとって歴史がとても身近な地域である。

2　地域・保護者の見守り活動

本校は駅が近く、朝の通勤通学時間帯には、車や自転車の交通量が一気に増える。この地域は道幅が狭く、坂道を加速して次々と下ってくる自転車は大変危険だ。保護者による当番活動はもちろん、「パパの会」の毎朝の見守りや、地域の有志による「見守り隊」の旗振りは、本当にありがたい。これらの方々によって未然に防げた交通事故はおそらく相当な数に上るだろう。子供たちの安全は地域の方々のあたたかいまなざしで守られている。

3　市川版コミュニティ・スクール

市川市は令和元年度にすべての市立学校・園に学校運営協議会を設置、令和２年度には中学校・義務教育学校ブロックに「学校応援団」である地域学校協働本部を立ち上げた。

今年度も本校では第１回学校運営協議会で、新しい学校教育目標、学校経営方針を承認していただいた。昨年度のジェンダーについての提案に対しては、６年生担任の「男女混合名簿で呼名を行う」という意向とあわせた卒業式を実現できた。来賓としてお招きした学校運営委員の方々は、学校運営への参画をより実感されたのではないかと思う。

また、本校が所属する第二中学校ブロックは須和田の丘支援学校を含む５校で構成されている。コロナ前から地域学校協働本部の活動として、地域の方々と管理職による情報交換はずっと継続して行っていた。今後はこれらの貴重な情報と人材を生かしながら、今まで制限されていた社会とつながる子供たちの学びを更に深めていけそうである。

4　教職員の力

本校も教職員が若年化。今年度は３名の初任者を迎えた。４年ぶりの大運動会では、初若年層が前に立ち子供たちと一緒に走り、笑い、涙した。ベテラン層が意図的に初若年層を表に出すことで、「子供たちのために私たち教職員もみんなでがんばっていますよ」という力強いメッセージを発信できたと思う。

やがて巣立っていく子供たちに、よりよい未来を引き継ぐため、これからも私たち教職員は地域や保護者と手を携えて進んでいきたい。